



臨床腫瘍センターだより



第6号(2008年10月14日)

小児腫瘍部門より

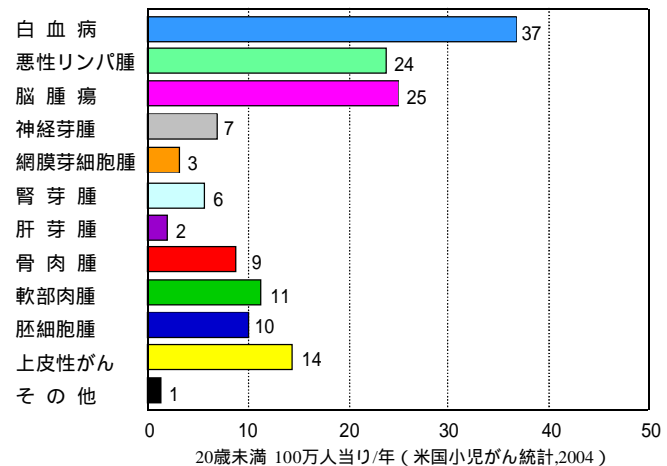


小児腫瘍部門とは

本年6月より、臨床腫瘍センター内の新しい部門として、小児腫瘍部門が開設されました。部門長は菊田敦です。小児腫瘍の専門部門として、これまで以上に幅広く、福島県内外の小児がん患者さんご家族のために、より良い治療を提供することが目標です。

私達が対象としている小児がんの種類と頻度を図に示しました。ここに示した全てのがん種が私達の守備範囲であり、年齢的には0～20歳くらいまでですが20歳以上でも小児タイプのがんであれば治療を行っています。

20歳未満における疾患別小児がん発症頻度



成人のがんとの違い

福島県内では年間約30数例の小児がん患者が発生していると考えられていますが、小児がんは診断が難しく、治療法も高度な技術と判断が必要であるため、大部分の患者さんは福島医大附属病院で集中的に治療が行われています。成人がんの治療の主体は手術であり、化学療法や放射線治療は補助的に行われるのが一般的です。

一方、小児がんは進行が速く、発見時にはその7割以上が遠隔転移を起こしており、手術で完全切除したとしても完治する症例はごく一部です。しかし、化学療法が非常に有効であり、固形がんに対しても積極的に多剤併用による強力な化学療法が行われ、放射線も必要により併用されます。さらに強力な化学療法を行う目的で造血幹細胞移植を行う場合もあります。これら4つの治療法をタイミングよく行うことが小児がんを治癒に導くポイントになります。



治療の実際

小児がんは発症数が少ないため施設毎に異なる治療を行っていたのでは成果があがりません。そこで各疾患毎に全国的な研究組織を結成し、最善の治療法を提供するために、ガイドライン治療としてではなく、目的を設定した臨床研究(試験)として綿密に計画され、実施されています。安全性と有効性を担保するために、定期的な報告が義務づけられており、第三者により効果と安全性評価が行われています。



長期フォローアップ

小児がんは治るがんの一つですが、治った後も多くの後遺症があることが解って来ました。の中には発育障害、内分泌障害、神経認知障害、身体的障害、PTSD、2次がん、生活習慣病の早期発現など、社会生活を行っていくうえで重大な問題が含まれています。さらには妊娠・出産など子孫への影響も解って来ており、これらの障害の予防とフォローが大きな課題となりつつあります。



文責 臨床腫瘍センター小児腫瘍部門 菊田 敦

化学療法部門より

当センターだより第3号のミニレクチャー中で「CVポートカテーテルの合併症」について掲載しました。その中の一つに「カテーテル断裂」が挙げられましたが、先日、当院においてその症例がありましたのでお知らせいたします。

< 症例 >

- ・40歳代女性/乳癌のため現在化学療法施行中。
- ・右鎖骨下にCVポート挿入後、約2ヶ月間は順調に投与されていた。その後、投薬（点滴）を行った際、滴下しなかったため、レントゲン写真を撮影したところ、カテーテル断裂（カテーテル・ピンチオフ）と判明。

< 皮下埋込型中心静脈ポートのカテーテル・ピンチオフについて >

現在外来化学療法室を利用されている方の中には、皮下埋込型中心静脈ポート(以下CVポート)を使用されている方も少なくありません。安全に薬物を投与することができるCVポートですがその合併症の一つにカテーテル・ピンチオフがあります。

カテーテル・ピンチオフとは、前胸部から挿入されたカテーテルが鎖骨と第一肋骨に挟まれることで生じるカテーテルの閉塞・損傷のことをいいます。発生頻度は0.1～1.0%と比較的低い部類の合併症です。注入に時間がかかる時や、体位を変えなければ点滴が落ちないような時はカテーテル・ピンチオフを疑う必要があります。そのような場合は定期的なレントゲン撮影で経過を観察したり、時には抜去が必要なこともあります。万が一、切断されて血管内や心臓内にカテーテルが迷入してしまった場合には、血管内に別のカテーテルを挿入し回収する必要があります。

< 9月の外来化学療法室利用状況 > 利用者数 192名

(単位: 人)

消化器外科	44	消化器内科	22
消化器外科	9	婦人科	3
乳腺外科	61	泌尿器科	1
呼吸器科	14	血液内科	2
呼吸器外科	0	小児科	32
皮膚科	4	合計	192



Cancer board開催案内

医療従事者を対象に、各臓器別に診療科横断的な腫瘍カンファランスを定期的で開催しております。医療従事者であればどなたでもご自由に参加できます。

骨軟部 10/20(月)18時30分
 悪性リンパ腫 11/ 5(水)19時45分
 頭頸部 11/10(月)18時
 呼吸器 11/10(月)19時

Pediatric Tumor Board・乳腺・消化器の日程は後日お知らせします。

お知らせ

臨床腫瘍セミナー開催案内

演題：「がん治療における陽子線治療の役割について」
 講師：財団法人脳神経疾患研究所 附属
 南東北がん陽子線治療センター長 不破 信和先生
 日時：2008/10/21(火)18時～19時
 場所：第二臨床講義室
 大学院生は共通必修科目(規定の8)に該当します。

緩和ケア学習会開催案内

テーマ：「臨床腫瘍センターの取り組み」
 講師：臨床腫瘍センター長 石田 卓先生
 日時：2008/10/14(火)18時～19時
 場所：カンファランス2

